

社会生活基本調査について -平成18年結果から- (その1)

平成18年10月20日現在で行われた平成18年社会生活基本調査(指定統計第114号)の京都市の独自集計がまとまりましたので、今月と来月の2回に分けて、その概要を紹介します。今回は、「生活時間」についてです。

○はじめに

社会生活基本調査は、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来、5年ごとに実施され、今回で7回目となります。

この調査は平成12年国勢調査調査区から抽出された地域内のうち、総務大臣が定める方法により抽出された世帯にふだん住んでいる10歳以上の世帯員を対象とする標本調査です。

このトピックスでは15歳以上の世帯員に関する週全体における生活時間の集計結果を扱っています。

○主な用語

就業状態

有業者 ふだんの状態として、収入を目的とした仕事を続けている人(「ふだんの状態」がはっきり決められない場合は、おおむね、1年間の間に30日以上仕事をした人)

無業者 有業者以外の人

1 1日の生活時間

15歳以上の市民について、該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の週全体における1日の生活時間の配分をみると、「睡眠」、「食事」など生理的に必要な1次活動は642分、「仕事」、「家事」など社会生活を営むうえで義務的な性格の強い2次活動は408分、「スポーツ」、「趣味・娯楽」などの余暇活動に当たる3次活動は390分となっています。

この結果は、前回の平成13年調査結果と比べると1次活動は1分、3次活動は3分それぞれ減少、2次活動は4分の増加となり、大きな変化はみられませんでした。

これを男女別にみると、男性は1次活動が632分、2次活動415分、3次活動393分で、平成13年と比べると1次活動は3分、2次活動は19分それぞれ増加、3次活動は22分減少し、自由時間活動などの3次活動が減少した分、仕事などの2次活動が増加しています。女性は1次活動が651分、2次活動402分、3次活動387分で、平成13年と比べると1次活動は3分、2次活動は10分それぞれ減少、3次活動は13分増加し、仕事、学業などの2次活動が減少した分、自由時間活動などの3次活動が増加しています。また、男女差を平成13年と比べると、すべての活動においてその差が縮小しており、特に2次活動は平成13年では男性より女性が長かったのが、平成18年は男性の方が長くなり、男性の時間配分は2次、3次活動が逆転しています。

就業状態別にみると、有業者は1次活動が621分、2次活動491分、3次活動328分で、平成13年と比べると1次活動は6分増加、2次活動は6分、3次活動は1分それぞれ減少しています。無業者は1次活動が676分、2次活動272分、3次活動491分で、平成13年と比べると1次活動は9分減少、2次活動は8分増加、3次活動は前回と同様となっています。1次活動と3次活動では、最も長いのが男性無業者、最も短いのが男性有業者で、それぞれ74分、268分の差がある一方、2次活動では、反対に最長は男性有業者、最短は男性無業者で341分の差があります。また、就業状態別の男女差を平成13年と比べると、有業者は1次、3次活動が縮小、2次活動で拡大しており、無業者は1次活動が拡大、2次、3次活動が縮小しています。特に有業者の2次活動では、男性が女性より長くなり、同じく3次活動では女性が男性より長くなったため、平成13年とは逆の結果となっています。

表-1 男女、就業状態、活動別生活時間(平成18年、13年)

(単位 分)

| | 1次活動 a) | | | 2次活動 b) | | | 3次活動 c) | | |
|----|---------|-------|------|---------|-------|------|---------|-------|------|
| | 平成18年 | 平成13年 | 増減 | 平成18年 | 平成13年 | 増減 | 平成18年 | 平成13年 | 増減 |
| 総数 | 642 | 643 | △ 1 | 408 | 404 | 4 | 390 | 393 | △ 3 |
| 有業 | 621 | 615 | 6 | 491 | 497 | △ 6 | 328 | 329 | △ 1 |
| 無業 | 676 | 685 | △ 9 | 272 | 264 | 8 | 491 | 491 | - |
| 男 | 632 | 629 | 3 | 415 | 396 | 19 | 393 | 415 | △ 22 |
| 有業 | 612 | 603 | 9 | 506 | 497 | 9 | 321 | 340 | △ 19 |
| 無業 | 686 | 695 | △ 9 | 165 | 140 | 25 | 589 | 605 | △ 16 |
| 女 | 651 | 654 | △ 3 | 402 | 412 | △ 10 | 387 | 374 | 13 |
| 有業 | 632 | 627 | 5 | 472 | 499 | △ 27 | 336 | 314 | 22 |
| 無業 | 671 | 682 | △ 11 | 327 | 324 | 3 | 442 | 435 | 7 |

a) 1次活動…睡眠、身の回りの用事、食事 b) 2次活動…通勤・通学、仕事、学業、家事関連(家事、介護・看護、育児及び買い物)

c) 3次活動…休養等自由時間活動(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ)、積極的自由時間活動(学習・研究(学業以外)、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動)、その他(交際・つきあい、受診・療養、移動、その他)

2 主な行動別の生活時間

週全体における1日の生活時間の配分のうち、主な行動として「睡眠」、「仕事」、「家事関連」及び「自由時間活動」に関する結果を紹介します。

(1) 睡眠

睡眠時間は462分で、男性は469分、女性は455分となっており、平成13年と比べると全体で4分増加し、男性は9分増加、女性は2分減少しています。

就業状態別にみると、有業者が453分、無業者が476分で、平成13年と比べて有業者は9分増加、無業者は3分減少しており、有業者は男女共に平成13年より増加しています。

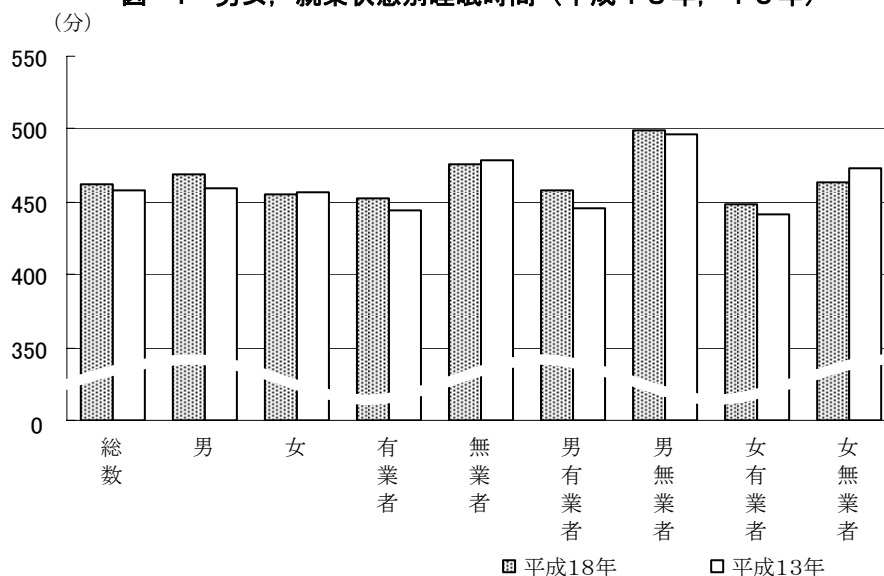
男女別にみると、男性は女性より14分長くなっており、就業状態別も併せてみると、有業者、無業者共に男性が女性より長く、最も長い男性無業者と最も短い女性有業者では51分の差があります。また、男女差をみると、女性の無業者のみ減少しているため、平成13年の3分から14分にその差が拡大しています。

**表-2 男女、就業状態別睡眠時間
(平成18年、13年)**

(単位 分)

| | 平成18年 | 平成13年 | 増減 |
|----|-------|-------|----|
| 総数 | 462 | 458 | 4 |
| 有業 | 453 | 444 | 9 |
| 無業 | 476 | 479 | △3 |
| 男 | 469 | 460 | 9 |
| 有業 | 458 | 446 | 12 |
| 無業 | 499 | 496 | 3 |
| 女 | 455 | 457 | △2 |
| 有業 | 448 | 441 | 7 |
| 無業 | 464 | 473 | △9 |

図-1 男女、就業状態別睡眠時間 (平成18年、13年)



(2) 仕事

仕事時間は210分で、男性は307分、女性は121分となっており、平成13年と比べると全体で5分減少し、男性は9分増加、女性は22分減少しています。

そのうち有業者は335分で、平成13年と比べると19分減少しており、男性は平成13年と同様であり、女性は48分減少しています。

男女別にみると、男性が女性より186分長く、全体では男性が女性の約2.5倍となっており、就業状態別にみても、男性有業者は416分、女性有業者は231分と男性が女性より185分長く、約2倍近くなっています。また、男女差をみると、男子有業者は前回と同時間数でしたが、女性有業者の減少が大きいいため、その差は平成13年の137分から185分に拡大しています。

**表-3 男女、就業状態別仕事時間
(平成18年、13年)**

(単位 分)

| | 平成18年 | 平成13年 | 増減 |
|----|-------|-------|-----|
| 総数 | 210 | 215 | △5 |
| 有業 | 335 | 354 | △19 |
| 無業 | 5 | 3 | 2 |
| 男 | 307 | 298 | 9 |
| 有業 | 416 | 416 | — |
| 無業 | 11 | 2 | 9 |
| 女 | 121 | 143 | △22 |
| 有業 | 231 | 279 | △48 |
| 無業 | 2 | 4 | △2 |

(3) 家事関連

家事、介護・看護、育児及び買い物を合わせた家事関連の時間は144分で、男性は36分、女性は242分となっており、平成13年と比べて全体で15分、男性は4分、女性は29分それぞれ増加しています。

就業状態別にみると、有業者は102分、無業者211分で、平成13年と比べると有業者は11分、無業者は24分それぞれ増加しており、有業無業別男女別のいずれの区分も平成13年より増加しています。

男女別にみると、女性が男性より206分長く、女性は男性の約7倍近い時間を家事関連に使用しています。特に、最も長い女性無業者は289分で、最も短い男性有業者とでは261分の差があります。また、男女差をみると、有業無業共に男性の増加がわずかであるのに対し、女性の増加が大きいため、平成13年の181分から206分にその差が拡大しています。

表-4 男女、就業状態別家事関連時間
(平成18年、13年)

(単位 分)

| | 平成18年 | 平成13年 | 増減 |
|----|-------|-------|----|
| 総数 | 144 | 129 | 15 |
| 有業 | 102 | 91 | 11 |
| 無業 | 211 | 187 | 24 |
| 男 | 36 | 32 | 4 |
| 有業 | 28 | 25 | 3 |
| 無業 | 61 | 51 | 10 |
| 女 | 242 | 213 | 29 |
| 有業 | 199 | 174 | 25 |
| 無業 | 289 | 252 | 37 |

(4) 自由時間活動

自由時間活動(休養・くつろぎ等)と積極的自由時間活動(学習・研究、趣味・娯楽等)を合わせた自由時間活動の時間は307分で、男性は322分、女性は295分となっており、平成13年と比べて全体で2分増加し、男性は3分減少、女性は10分増加しています。

就業状態別にみると、有業者は260分、無業者387分で、平成13年と比べると有業者は6分、無業者は9分それぞれ増加しています。

男女別にみると、男性は女性より27分長くなっています。特に、最も長い男性無業者は475分で、最も短い女性有業者とでは223分の差があり、約2倍近い自由時間活動を行っています。また、男女差をみると、男性無業者が減少する一方、女性では有業無業共に増加したため、平成13年の40分から27分にその差は縮小しています。

表-5 男女、就業状態別自由時間活動時間
(平成18年、13年)

(単位 分)

| | 平成18年 | 平成13年 | 増減 |
|----|-------|-------|----|
| 総数 | 307 | 305 | 2 |
| 有業 | 260 | 254 | 6 |
| 無業 | 387 | 378 | 9 |
| 男 | 322 | 325 | △3 |
| 有業 | 266 | 264 | 2 |
| 無業 | 475 | 483 | △8 |
| 女 | 295 | 285 | 10 |
| 有業 | 252 | 242 | 10 |
| 無業 | 339 | 327 | 12 |

図-2 男女、就業状態別自由時間活動時間(平成18年、13年)

